

令和3年度小牧市教育委員会情報セキュリティ監査結果

1. 監査の対象校及び実施期間

(1) 対象校

三ツ渕小学校、味岡小学校、篠岡小学校、篠岡中学校、北里中学校

(2) 実施期間

令和3年10月22日から令和4年1月28日まで

2. 監査の方法

情報資産の管理、物理的セキュリティ及び人的セキュリティに関する取組状況等について、教職員対象のアンケート調査及び校務外部接続系端末のフリーソフトウェア調査を行うとともに、関係教員から説明を聴取し、校務の執行が適正かつ合理的・効率的に行われているかどうかを主眼として監査を実施した。

3. 監査の結果

監査を実施した範囲においての各校のセキュリティに関する取組状況について、次のとおり改善を要する指摘事項が識別された。

一人ひとりの教員及び学校組織におけるセキュリティ意識、情報漏えいに対する危機意識を向上し、各校において、現状の把握及び運用管理に関して改善に努められたい。

(1) 教職員アンケート調査による自己点検

(全校)

- ・ 出退勤管理システムについて、入力を忘れる教職員がいたため、出校時及び退校時の入力の徹底について再度周知されたい。
- ・ 個人情報など重要な情報資産を、電子メール等で外部に送信する場合は、暗号化またはパスワードの設定をするよう周知徹底されたい。
- ・ 電子メールを複数の宛先に送信する際には、BCCを利用して、送信先間で電子メールアドレスが知られることがないように周知徹底されたい。
- ・ 各種データを取り扱うにあたり、「情報資産の分類」の重要性に照らし合わせ、端末やデータの保存先を区別するよう周知徹底されたい。

(三ツ渚小学校、味岡小学校、篠岡中学校、北里中学校)

- ・ 小牧市教育情報セキュリティポリシー及び実施手順を読んだことがない教職員がいたため、同ポリシー等について再度周知されたい。
- ・ 授業や会議等で 比較的長く席を外すときは、端末をロックしたり、容易に閲覧されたりしない場所に保管するとともに、帰宅時には端末をシャットダウンするよう周知徹底されたい。
- ・ C4th 等の各システムのパスワードを机上にメモしたり、オートコンピュータ機能を有効にして、自動で入力したりしないよう周知徹底されたい。
- ・ 円滑に校務を遂行するため、校務サーバや交換箱において、必要のなくなったデータは速やかに削除するよう周知徹底されたい。

(味岡小学校、篠岡中学校、北里中学校)

- ・ 業務以外の目的で、電子メールアドレスの使用やインターネットへのアクセスをしないよう周知徹底されたい。
- ・ クラウド上のデータを学校外の PC にダウンロード・保存する行為は、「組織外部への情報資産の持ち出し」に該当する。クラウド上へのデータのアップロードは情報資産の内容・公開の可否などを踏まえて適切に判断したうえで、クラウド上に保存したデータを学校外のパソコンにダウンロードしないよう周知徹底されたい。

(2) 校務外部接続系端末のフリーソフトウェア調査

(全校)

- ・ 小牧市教育委員会教育情報セキュリティポリシー及び教育情報セキュリティ実施手順において、教職員用の端末は市教育委員会が定めた以外のソフトウェアをインストールすることを原則禁止しており、新たなソフトウェアのインストールが必要な場合は、学校教育 ICT 推進室長に申請し、許可を得る必要がある。
- ・ 令和 3 年 1 1 月 8 日時点において、対象端末数 1 4 3 台のうち、必要な申請手続きを経ずにフリーソフトをインストールした端末が 7 台確認された。 (味岡小学校 1 台、篠岡小学校 1 台、篠岡中学校 5 台)
- ・ フリーソフトのインストールは、ウイルス感染や情報漏えい、コンピュータシステムの破壊など、情報セキュリティに関する重大な事故につながる

可能性があるため、十分な安全確認を行う必要がある。業務上必要なフリーソフトがある場合は、必ず学校教育ICT推進室長に申請し、許可を得るよう周知徹底されたい。

(3) 現場調査及び教職員ヒアリング

(三ツ瀨小学校、味岡小学校、篠岡中学校、北里中学校)

- ・職員室内で以下の状況が確認されたため、情報漏えい及びコンピュータの故障につながる行為をしないよう、周知徹底されたい。

① 離席者の机上で校務系パソコンの画面がロックされずに閲覧できる状態であった。

(対策) 長時間席を外す際は端末をログオフする。

スクリーンセーバーを設定する。

② パソコンの近くに飲み物が入ったマグカップ等(蓋なし)が置かれていた。

(対策) パソコン及び書類の近くに飲み物を置かない。

蓋つきの容器を使用する。

(篠岡小学校、篠岡中学校)

- ・各教室に設置しているタブレット用充電保管庫の鍵を各担任が自席で保管していたため、鍵の紛失及び盗難防止の観点から、管理職が鍵の使用状況を随時把握できるように管理方法を改善されたい。